

適切な意思決定や行動選択を行い、積極的に
健康な生活を実践することのできる生徒の育成
～性に関する指導を通して～

鹿児島市立東谷山中学校
養護教諭 古橋 香織

1 はじめに

本校は鹿児島市西部に位置し、全校生徒 809 人 PTA 戸数 736 戸、教職員数 72 人の大規模校で、養護教諭複数配置校である。昭和 55 年に谷山中学校から分離し、東谷山小学校と清和小学校を校区とし今年度で創立 42 年となる。

校区内には、大型商業施設や大型リサイクルショップ、公共支援施設などがあり生活に非常に便利な環境である。

2 本校生徒の実態から

本校生徒の多くは、明るく落ち着いた態度で生活しており、何事にも一生懸命に取り組んでいる。部活動も大変盛んで、各種大会で活躍し全国大会や九州大会へ出場する成績を収めている。

一方、自己肯定感が低い、やる気が出ない等の生徒も少なくなく、生活習慣の乱れやメディア依存による体調不良で欠席する生徒が 1 日 70 名程、保健室来室利用者も 1 日 10 名程はいる。

また、生徒の携帯・スマホ所有率は約 7 割を占めており、SNS に関係した相談が近年多くなってきている。その中には、性に関する問題もあり、生徒の性に関する知識や行動の差は大きい。社会の変化や生徒を取り巻く環境等から、問題発生を予防する教育の必要性を感じている。

そこで、これまでの本校の性に関する指導を工夫改善しながら、自分を大切にする気持ちや自己肯定感を高めさせ、今回のテーマ「適切な意思決定や行動選択を行い、積極的に健康な生活を実践することのできる生徒の育成」に取り組もうと考えた。

3 本校の「性に関する指導」の実際から

教育活動全般で系統性と計画性をもって指導をすることや、保健室の機能を生かした保健教育推進を目指し、次のことに取り組んできた。

(1) 学校全体での取組

ア 健康教室

	令和元年度 テーマ	令和2年度 テーマ	令和3年度 テーマ
1年	心と身体の主人公になろう (県助産師会)	心と身体の主人公になろう (県助産師会)	心と身体の主人公になろう (県助産師会)
2年	生きるための性教育 (県看護協会)	心と身体の主人公になろう (県助産師会)	生と性の健康教育 (メンズヘルスクリニック院長) (思春期保健相談士)
3年	性の情報源と恋愛について (思春期保健相談士)	性の情報源と恋愛について (思春期保健相談士)	性の情報源と恋愛について (思春期保健相談士)

【生徒の感想】

- ・ 女性の妊娠は辛いこともあるが、とても神秘的なものだと思った。男子は性と向き合うことが難しいなと思った。(1年生)
- ・ 僕は体についての知識を得ることができた。また、知ろうとしない、興味がないということがいつか後悔にならないように正しい知識を覚えておきたい。(2年生)
- ・ 僕はLGBTsの人に対しての偏見はもともとなかったが、今日の講話を聞いて、誰が誰を好きになってもいいんだと改めて感じた。(3年生)

(2) 学級活動での取組

	学級活動テーマ		
1年	生命について考える	男女の理解と協力	中学生の体と生活
2年	「恋愛」を考える	心と体を健康に	性情報とその選択
3年	青年期の悩みと解決	これからの男女交際	性感染症を学ぶ

ア 1年生「中学生の体と生活～思春期の悩み～」

【ねらい】

思春期は心が大きく揺れ動く時期であることを知り、自分自身がその時期にあたることに気付く。体の変化に伴う悩みや不安を解消する糸口を見つける。

【本時の内容】

- 小学校からの心や体の変化に気付く。
- 思春期における心や体の変化を知る。
- 心や体の悩みの解決方法を知り、自身の解消法を見つける。

【生徒の感想】

思春期は心や体が成長するということを知ったのでしっかり自分の気持ちもコントロールできるようにしたいと思う。

イ 2年生「性情報とその選択」

【ねらい】

性情報の現状を知り、正しい判断ができる。情報を見極め方を知り、性被害から身を守り、トラブルに巻き込まれないスキルを身に付ける。

【本時の内容】

- 情報のリスクをチェックする。
- 性情報の光と影を考える。
- 性情報の危険性について知る。
- 情報を取捨選択する方法を学習する。



【生徒の感想】

何度聞いても怖いと思う。自分も将来は、情報を発信する側になりたいので、正しい倫理観と正しい知識を得るために今後もしっかり勉強していきたい。

ウ 3年生「青年期の悩みと解決～自分を大切にしよう～」

【ねらい】

男女ともに妊娠の機能があることを知り、思春期になるにつれて体の大きな変化があることに気付く。性行動を含め、先を見通した生き方を自分で考えて自分で決める力を身に付ける。

【本時の内容】

- 思春期の体の変化について知る。
- 上手な交際について考える。
- 正しい性行動「8つの心得」を知る。
- 自分で考え、自分で決めることの大切さに気付く。

【生徒の感想】

嫌な時は嫌だと断ることが大切だと気付いた。

(3) 保健室での取組

- ア 保健室来室者との相談活動
 - (ア) 養護教諭による個別指導
 - (イ) 専門機関との連携
- イ 保健教育への支援
 - (ア) 資料提供（生徒・保護者・職員）
 - (イ) 学級活動での TT
 - (ウ) 関係機関との連携
- ウ 掲示物の工夫や配布物での啓発

- (ア) 掲示物の工夫（学習の振り返り）
- (イ) 保健だよりによる性に関する内容の紹介

(4) 他教育活動での取組

- ア SNSに関する講話（全学年）
 - イ 非行防止教室（1年生）
 - ウ SOSの出し方に関する教育（2年生）
 - エ ストレスマネジメント教室（3年生）
 - オ 職員研修
（年2回-LGBTs研修・人権教育講話）
- ### (5) 関係機関・専門家との連携
- ア 小学校との授業参観及び情報交換
 - イ 児童相談所や警察等との連携
 - ウ SCやSSW、臨床心理士相談員との連携

4 成果と課題

(1) 成果

- ア 現代的課題と生徒の実態に即した内容に取り組んだことで、生徒の意識変容が図られた。
- イ 校内での指導体制を整えたことで、組織的に性に関する指導が進められた。
- ウ 外部講師の活用で、専門性の高い学習ができ、生徒のライフプランへの意欲付けが図られた。

(2) 課題

- ア 生徒の行動変容に繋がる「個別指導」の充実を図りたい。
- イ 「性に関する指導」の研修を充実させ指導計画のPDCAを推進していきたい。
- ウ チーム学校としての性に関する指導の充実を図りたい。

5 おわりに

本校は、養護教諭の複数配置を活かした保健教育を推進しようと取り組んできたものの、まだまだ課題は多い。とりわけ、性に関する指導は、生徒の幸せな未来づくりのために重要な教育だと捉え、生徒一人一人が自らを大切に思い、たくましく生き抜いていく力が身に付くように、指導の充実を図りたい。